

タイトル：

共に生きる力を育む
～子どもたちと創る未来～

キーワード ※3つ記入。

福祉教育	法人名	社会福祉法人 北海道友愛福祉会
人材育成	施設種別	特養
地域貢献	施設名	静苑ホーム

研究者 (取組に関わった方のお名前5名まで)	氏名	職種	備考
①	金子 里美	生活相談員	
②	久保田 亜沙里	介護職員兼生活相談員	
③	稲垣 颯大	生活相談員	デイサービスセンター友愛野幌
④	葛西 紗苗	介護職員	ヘルパーステーション友愛野幌
⑤	橋本 智晶	事務員	

施設の概要

※ここに記載した内容のうち、発表内容に直接重要な関係を持たない事項については、本資料をもって発表の際の説明から省略してください。

設置主体	社会福祉法人	経営主体	社会福祉法人
開設年月日	昭和48年12月25日	所在市町村	江別市
市町村人口	118,097 人	65歳以上人口 (高齢化率)	36,783 人 (高齢化率 30.72 %)
利用者定員数	165 (うち短期入所15人) 人	利用者平均年齢	84.7 歳
職員数	155 人	職員数内訳	介護職 90名 看護職 15名
併設施設・事業	デイサービスセンター友愛野幌 居宅介護支援事業所友愛野幌 ヘルパーステーション友愛野幌 障がい福祉サービス友愛野幌		
施設のサービスの概要	『和顔愛語』をモットーに、ご利用者のみならず地域のみなさまに、笑顔ある暮らしや喜びを感じていただけるよう、「みんなが幸せになるための福祉拠点」として進めている。		

発表の概要

<p>①取り組んだ課題</p> <p>・子どものころの体験が、福祉に興味を持つ第一歩となり、優しい人材の育成と、優しい地域づくりに繋がるのではないかと考えている。</p> <p>・福祉授業などでの「体験」が、「大変だった」「高齢者や障がい者はかわいそう」で終わらないような働きかけや、工夫が大切。</p> <p>・学校教育において福祉・介護の専門職が介入すること、学校教育以外でも、福祉に携わる機会や思い出として残る体験・交流の場を創る必要を感じ、取り組みを開始。</p> <p>・近年の新たな課題として、感染症の流行に伴い、福祉教育活動に制限が生まれ、子どもたちが福祉に携わることができない状況となり、対策が必要となった。</p>	<p>③活動の成果と評価</p> <p>・子どもたちが「自分にできることは何か」を考えることができた。（体験文やご利用者への手作りのプレゼントなどから評価）</p> <p>・施設全体で連携を図り、体制が整えられたことで、子どもたちの想いをご利用者へと繋げることができた。</p> <p>・小、中、高校生が静苑ホームに来て、ご利用者と交流できたことにより、自然とお互いに笑顔や感謝の言葉が生まれ、関わる人たちみんなが「幸せ」や「喜び」を感じられるようになった。</p> <p>・福祉体験が、子どもたちを通じて、親の世代、学校の先生にも、福祉への関心が生まれるきっかけとなった。</p> <p>・ワークキャンプ、放課後キッズボランティア経験者が介護職員として当施設に就職をした。</p>
<p>②具体的な取り組み</p> <p>プロジェクトチーム「新芽クラブ」を発足し、地域に福祉の“たね”を蒔き、福祉の“芽”を育む活動として、以下の取り組みを行なった。</p> <p>【歴史ある「ワークキャンプ」の継続とプログラムの更新】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当法人内の老健、盲養護老人ホームなどと連携し、協同開催。 ・専門職との交流を経て、福祉・介護の魅力を知るきっかけを創る。 ・キャリアビジョンに福祉を考えている高校生の職場体験の場にもなることを、学校を通じて発信。 <p>【出張授業リニューアル】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学3年生に、①福祉、②車椅子、③視覚障がいを通じたコミュニケーション、の授業を実施。身近なものを使用しての発見や工夫を知り、思いやりや優しさを引き出す内容とした。 ・福祉用具貸与事業所などからの協力を得た。 <p>【放課後キッズボランティアの再開】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策における“制限”の見直し。 ・子どもたちができるボランティア活動の抽出。 ・ポイントがたまったらガチャガチャアプリが利用できるボランティアカードの運用。 <p>【キッズボランティア福祉お仕事体験】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校の協力とSNSなどを活用して参加者を募集。小学生の夏・冬休みに企画し、自由研究に活用できるシートを配布。 ・介護職員や養成校の学生と一緒にボランティアやお仕事体験。ご利用者と行事に参加し思い出づくり。 	<p>④今後の課題</p> <p>・思い出に残る福祉体験と、福祉・介護の魅力の発信を継続。受け入れ人数拡大。</p> <p>・他校区の小中学校や中学校、江別市外の高校への繋がりを創り、福祉教育活動を広げ、人材確保や育成に繋げていきたい。</p>
	<p>⑤参考資料など</p> <p>◇鳥居一頼著/子どもと学ぶボランティア～「こっちょ」のボランティア授業論</p> <p>◇日本福祉大学/新版 はじめてのふくし</p>